

小学校 第1学年 学級活動(2)指導案

平成27年11月13日(金)

児童数

指導者 T1:教諭

T2:管理栄養士

1 題材 「やさいのパワー」

学級活動(2) キ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

2 題材について

(1)児童の実態

本学級の児童はみんな元気で、休み時間にはほとんどの子どもが外に出て遊んでいる。給食の時間もとても楽しみにしており、「今日の献立は何かな。」と毎日のように話題にしている。しかし、食べ始めてみると、好きなものはすぐに食べ終わるが、野菜のお皿に手がつけられていなかったり、汁物のスープだけ飲んで具の野菜類やキノコ類を避けていたり、嫌々少しずつしか口に運んでいなかったりする子どももいる。理由としては、嫌いな食べ物や苦手な味があるということも考えられるが、「食べたことがない」「おいしそうでない」と敬遠してしまうことも多いように見受けられる。

年度当初は苦手なものをなかなか口にできなかった児童もいたが、時間内に食べ終わったことや残さず食べたことを評価する「給食ばっくん賞」を設けて意欲づけを図ったり、縦割り班の班長である6年生に励ましてもらったりすることで、大半の児童は苦手なものであっても最後まで食べることができるようになってきた。しかし、栄養が偏ると体にとってどのような影響があるのかについては、ほとんどの児童が十分に理解していない実態がある。

(2)題材設定の理由

心身ともに健康な体を作るためには、偏食をせずに何でも食べることが大切である。「好き嫌いをしないでなんでも食べることが、健康な体を作る上で大切であること」を1年生なりに楽しく理解し、なんでも食べてみようとする意欲を育みたいと考え、本題材を設定した。今回は、児童に特に苦手意識の強い野菜に焦点を当て、野菜のはたらきを知り、苦手なものでも工夫して食べる「食べ方」について考えさせたい。さらに、保護者にも呼びかけ、低学年のこの時期に、バランスの取れた食生活の良さを家庭でも共有し、実践に生かせるようにしていきたい。

キャリア教育の視点でも、食べ物に限らず苦手なことを自らの力で克服していく力、克服するためにどうすればいいのか考える力を子どもたちに付けさせたいと思い、この題材を設定した。

3 第1学年及び第2学年の評価規準

観 点	集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活への 知識・理解
評 価 規 準	自己の身の回りの問題に関心を持ち、進んで日常生活や学習に取り組もうとしている。	学級生活を楽しくするために日常生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	学級生活を楽しくすることの大切さ、そのための基本的な生活や学習の仕方などについて理解している。

4 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
・題材を知る。 ・アンケート調査に答え、自分の問題について考えておく。(児童・保護者)	・児童の嫌いな食べ物傾向や、好き嫌いをすることについてどう思っているのか知るためにアンケート調査を行う。	【関心・意欲・態度】 ・好き嫌いを自分の問題として真剣に考えようとしている。(アンケート調査)

5 本時のねらい

○好き嫌いしないで食べることの大切さを知り、健康な生活を送ることができる。

キャリア教育でのつきたい力

◎苦手な食べ物でも、自ら進んで食べようとする。【自己理解・自己管理能力】

6 本時の展開

	児童の活動	指導上の留意点・T1 ○T2 ☆…キャリア教育視点での留意事項	資料	目指す児童の姿と評価方法
導入	1. 好きな食べ物・苦手な食べ物についてのアンケートの結果を見る。	・クイズを交えながら、これからの学習に関心を持たせ、好き嫌いを自分の問題として考えられるようにする。	模造紙 食材カード	
展開	2. 好きなものばかり食べて、野菜をとらないとどうなるか考える。	・アンケートで出てきた好きなものばかり毎日食べているとどうなるか子どもが予想するようにする。 ○野菜が不足すると起こる健康上のリスクについて、わかりやすく伝える。	食材カード 元気列車	
	3. 今日の課題を知る。	・課題を提示する。		
	にがてなやさいにチャレンジしよう！			
	4. 苦手な野菜を食べる工夫を話し合う。	☆苦手なものがあるのは当たり前ということを伝え、残さず食べられる食べ方の工夫について考えるようにする。 ・苦手な野菜がない・少ない児童には、苦手な人へのアドバイスを考えるようにする。		【思考・判断・実践】 ・今日学習したことをもとに、食事のとり方について考え、どのようにしなければいけないか具体的なめあてを考え、進んで実践している。

終 末	5. 自分の「にがてな やさいチャレンジさ くせん」を考える。	・自分自身の課題を確認できる ように支援し、どのように努 力したらいいのか考えて自 己決定できるようにする。	がんばりカ ード	(がんばりカード・観察)
--------	---------------------------------------	---	-------------	--------------

7. 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
・自分の立てためあてや取 組等について実行し振り 返る。	・給食の時間を利用してがんばりカ ードの確認をし、お互いに励まし 合いながら、好き嫌いなく食べら れるように意欲付けする。 ・学習内容を保護者にも伝え、家庭 との連携を図れるようにする。 ・子どもから出された意見によっ ては、給食室とも連携を図り、児童 が課題解決に向けて取り組める ようにする。	【思考・判断・実践】 ・自分や友だちの頑張りについて 考え、好き嫌いなく食べること について進んで実践している。 (がんばりカード・観察)